

競争は恣あにしてする

通らねばならぬ道筋
違つた書き方の投書

から湖南線に入り木浦に行き其往路
が露路かに群山を訪問して大田に引
返し京釜線を下つて三浪津から馬山
に赴き引返して釜山に出て門司に渡
り便船を待つて臺灣に向ひます。基
陸に上陸して縱貫鐵道を打狗迄行き
引返します。が矢張り其往路が露路に
淡水線を踏んで淡水譯長の證明を貰
つて來ねばなりませぬ。臺灣での仕
事が終れば基隆から又門司に引返し
更に便船を待つて大連に行きます。
便船の都合がいくら悪かつた處で朝
鮮から大連に出る事は出来ないの
です。門司大連間は乾度艦で行かねば
先づ旅艤を詔ひ北上して長春に向ひ

共進會は國產見本の陳列なり
之れを見て一と工夫なかるべからず青

私の誇りとして發表をするを憚ら
ないのである

▲料理券の發賣

客を迎えて第一に心配するものは
度の食事である。一々自宅で請ら
御馳走をするのも心苦しいと云
に、其處で私は之等の不便を思つ
此共進會中料理券を發賣するこ
にじました、五十錢と七十五錢と
二様の切手を拵へることにして其
料理は西洋料理と朝鮮
料理の二様とし市巾では西洋料理
料不客とパコタ公園、朝鮮料理は

六月
先頭
六八
高の
止め
白米

て千載一遇の
共進會開會中には日本から國分
お客が来る、京城として此客を遇

社から二百枚の申込みがあつた位
 料理屋に對する此料理は客人歡迎
 意で、平素より三割以上の大客を
 居て居ますし一方極めて廉價に朝
 料理を試食することが出来るから
 城に居て未だ眞箇の朝鮮料理を試
 ない人意にも珍重がられると信じ
 居る（久松金次郎氏談）

九月

東京株式特電

製品之に値して一齊値上げを
り今や各票は二エーの至
美區段は

九圓五十錢福信
龍百二十圓五十

仁川海軍町三丁目
電話六二八番
一五二番

[illegible]

は天候の關係と豫想以外の大不作
州へらるゝに到りたるさ京阪筋の
感負も加はり過般突飛接續いて好

[illegible]

下關相場

[illegible]

に居る杯各手持席の賣り腰強きに依り其役市況氣盛く之れが旁々の出資

實に三十一錢大下付
 勢なる賣物斯に
 一錢と返して再び
 の大關門
 九十九錢を見たと
 運に氣向ひるト

ライコン	二二五	ニンロン
レインコン	二二〇	ブレイン
ナガイモ	一〇〇	クワイモ
ナンキン	一五五	キマナ
ナス	五	ウツ
アカメイモ	八〇	トノイモ
ナギ	二〇	ナダバ

電一〇五〇
▲當る九月三日より五日樹嶺に不拘午後六
時世界の奇術其他餘興松旭齋

能効治

●冷腹 ●食通なしより起る ●下痢
●嘔吐 ●腹痛 ●吐瀉 ●泄瀉 ●胃弱
●消化不良 ●胃痛 ●胃力乏るを治す

な止め ●腸カタル ●胃力乏るを治す

本舖 東京市日本橋區本町二丁目 **津村敬天堂**

支店 日本全國各藥店

大阪府堺市

本莊酒店

浪桃川如燕口寅
上義三郎速記

助ける。この氣風は他國にない。見申す所江戸の御方に相違ない。一最前のお扱い誠に服膺をいたした。御若年ではあるが貴方のやな方を見るに誠にお懐かしい。かゝるお差支へなければ御名前が御座るに居て人を待つて居る。かういふ人物はどれだけ智慧がある。ういふ人物はどれだけとチヤンズに分ける。今この人物若年ではあるどころか見所があるから、ソコデカへ運込んで名前を聞いた。右の如く初めは確證して居りましたが、

本場
ちゅうぶ銘仙

京城本町二ちとぶや

新荷着

電話八九二番
振替三〇二番

[illegible][illegible]



米期

致富之要無代進星
 而金計安に精有る要せず
 而常島米穀に計所伸實

正 橋本 猪

電話長安 二五〇
 二五二
 二五三
 二五七

橋本町広田町一四二七

進歩せる國民に
 は進歩せる藥劑
 を要す
 是が理想的なる
 は大學目也

蘇峰 德富猪一郎著 第五版發賣

天 覽

世界の變局

是れ評論的述作の最も權威ある者也 （日本及日本人評）

眞に近來の奇著快著と云ふべき也 （時事新報評）

熱誠の氣磅礴して句々誦すべし （報知新聞評）

好主人の好題目を捉へたる者也 （東京日日評）

所謂鵲鳩的翻譯的の書にあらず （東京朝日評）

定價二圓五拾錢
（本報社代印）

分の身の仁を打明けました。此男
江戶廻町元庵門國寺谷に住居し
公儀の旗本多田三左衛門の次男
助といふ、お父上は先年歿して
の三十郎殿が家將八百石を頂戴し
して居ります。先權に甲陽二十四
の一人、武田信玄に仕へましたる
田邊清守満吉といふ名代の家傑で
ざいます。この該藩守は前名を三
さいつて情州不動龜空藏山の城主
相成りました。この龜空藏山とい
はるは舊く處座になつて居りまし
ても佐ふ者がございません、ソコで
住む者には一萬石を遣はすこと
を公から御沙汰がございました。
を聞いた三八が、俺が行つて一つ
城にしてやらうと七八人の家来を
連れて龜空藏山の麓、参りまして一
軒の茶屋があるから其へ家來を留め
て貰へば決して誤て来てはな
らん、明日の朝まで此所に待つて居
よう、決して山上つゝ来てはな
さんぞ」と堅く申付けて麓の茶屋へ
家來を留め、自分一人で山へ上り、
龜空藏寺の城へ来て見ると物凄じ事
が有りません。

草津本造平家一棟（十七間半）
建坪二坪六合九寸
最低購買價額金八十八圓三十七錢也
右不產所有者 西川健次郎
京政府大平通二丁目二番地
建坪二百五十五坪合廿七才
最低購買價額金一千七百九十圓也
右不產所有者 中野鐵太
京府不動所行者 河上樋有
今京府平吉町二丁目二百七番地
建坪十一坪六合六寸
最低購買價額金八十圓也
建坪丹井丹生本家一棟
建坪一坪合四寸
最低購買價額金十圓也
右買賣立人 有賀實業株式會社東京支店
京府不動所所有者 井上千三三
同建坪二坪二丁目百叁拾八番地
最低購買價額金七十圓三十六錢也
建坪丹井丹生本家一棟
建坪一坪合二寸
最低購買價額金七十圓三十六錢也
建坪草薺平家建本家一棟
建坪一坪九合七勺
最低購買價額金九十七圓七錢也
右不產所有者 近江佐五郎
京府不動所所有者 近江佐五郎

京府水戸下九十九番地
建坪一百二十坪
最低購買價額金四千五百六十圓也
右買賣立人 建本家一棟
建坪五坪合五寸五分
最低購買價額金五千五十圓也
建坪三坪合五寸二分

外科 梅毒、淋疾
内科 痔、肛門病、
(包醫入院)
小兒科 膿血鼻咽喉科
島崎病院
 東京市豊島区西池袋二丁目一ノ番
 電話 三六九七

社主催家庭博覧會
城の空
クラ
七

著者以外に聴く可らざる
 經國論策也
 實業之日本評

發賣所
 京城大平通一丁目
 振替京知三〇〇番

京城日報社代理部

開催を祝して
 向く今日も
 留
 松

公
 公

店理代
—●—

安木元同
東松山京
縣平南
市山大大
場港平
通河通

井石田新
木石田新
下池大藥
藥生黑藥
舖堂舖房



飲は人のいらき薬
はルーロエフ

養滋きべく驚てしに味味の

や人の弱虚
りせ當適でも尤きは家に生養

腎久弱小補本

本道瓦屋及針丹敷二階建本家一棟
外二階坪二合六勺
内針二坪十八坪七合六勺
附隔木道瓦葺二階建本家一種
建坪七坪九合三勺
外二階坪六坪四合三勺
内針丹敷二階建本家一種
京低販賣價銀町三丁目五十五二錢也
京低販賣價銀町三丁目九十六番地
最低販賣價銀金三千七百圓也
本道瓦屋及煙瓦造二階建本家一棟
建坪十九坪二合二勺
外二階坪二合二勺
最低販賣價銀金七百六十圓八十錢也
右販賣中上人東京建物株式會社
不動產所有者井上貞傳
京城府智洞二百九番地
最低販賣價銀金四百十五圓也
本道瓦屋一建
同地上二建
最低販賣價銀金本家一棟
右販賣中上人本家一棟
不動產所有者朴承成

天下
日本名

大飛行

物 品

クラブ白粉本店の

船揚る！

晝は雄姿堂々
夜は光輝燦然

太平通の空高く！

(刊休月四日假祭七)

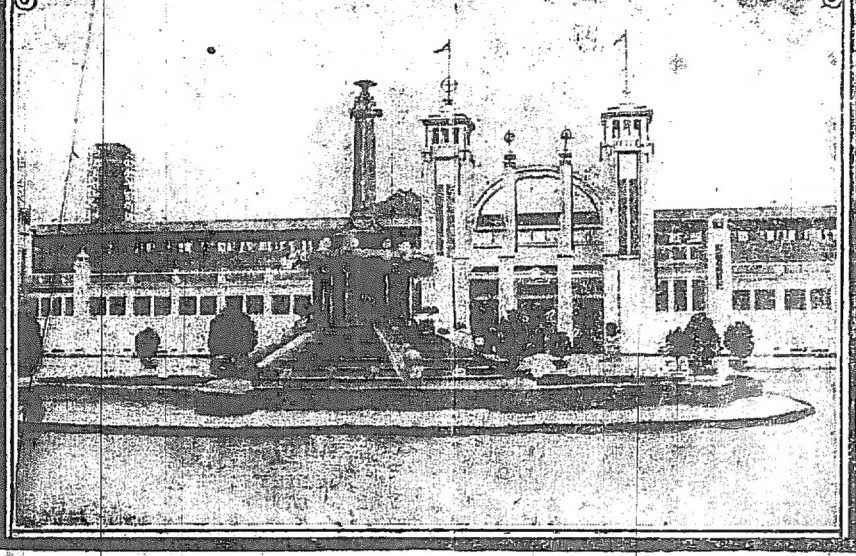
三 始政の綱領

共進會第一號館二 本館内に於て

二、歐羅巴に於る共

に反して世界の樞要なる國の國體は

を受けて發達したる國民に非ざしものは英國に於て十七世紀に試み



皇帝を奉じてチャールズ第一世の服し遂に議會に於て皇帝を國事宣告の下に死刑に處しコンモンウェルスに共和國を設立した。元來共和國は英國人民に適合するのみならず、本問題に於ては數年の後クロムウェルは又皇帝に復讐せられてチャールズ第二の皇子によつて又國王に復した。

山づたひたひであてもなく彷徨へ
 黄昏れそめて涙ぐまるゝ
 たゞひざりまた放浪の旅に出ぬ
 切草の咲きそめてより

秋の草わが好く色の花咲きぬ遠き
 所在にふと立ちぬし川岸の
 鉄の鈴が心地よく鳴る
 見たりをすゝきのかげに瓜切れ
 何事も女なりとてあきらめて白
 糸の針を運びつ
 花のあかき鳥子に青き蟲小

京阪 萬代美智子

雲の初く赤土島は悲しけれ海女
 花の門に立てば足底くすぐりてあるが嬉しも
 船の帆も錨の群も一様に紅く染
 衣きて何を思ふや
 セブニウモ秋雨のうちに唯一人
 立きて何ぞを思ふや
 磯興

演の手に専念に破損りあけて破
 満修を擧げてあれば
 河かしら頻りに涙湧く日かな此
 るるがおかしきもあり
 平賀 鄙

はあまりにかしこき女
 大郎 高田 琴太郎
 張り代へし縁の隙子にいつしか
 黄の實に秋の色は浮べり
 京極 霜
 花の影
 花の影たる後のさびしさの
 今日また夢を歩のみにて胸にをく
 夢の影のほしかりけり

○東京まで(三) 杉原用柿
山崎がボチ／＼と瀑布へ行く路
に、ふいに赤く買るも

○近ひみみづ鳴けるも
龍山大滝夕雲の響

○明け方は沼にも似たる豆畑に露
の音

○致院驛
舟車遠かたに旅外に遊る
君を得て秋晴るゝ心

大田驛 婦や湖南に駭る驛忙し
黄鵠驛 近き水車かゝれり水の秋
秋風館驛 影の野になく秋の山さる
金泉驛 河原出水に舟もなし

共進會記念新煙出づ

新製品兩切

ビュウチは

時代の要求に
應せん爲め

共進會記念として

精撰せる

良煙を

驚くべき

廉價にて

全く新機軸を

出して調製したる

理想的良煙なり

試みに
新煙
ビュウチを

一度御喫用にな
れば其の人は
良煙にして喫む
心地良さに驚い
て一生斯の煙草
を離すまいと御

決心になります
九月十一日
より賣出し

東亞煙草株式會社

東京城
本町(三越)裏通り 電話二一九四番
閑靜丁寧低廉
市の中央に在て諸種の用
務を辦するに最も便利也
柔道部御用達
手刺
專門
改良柔道衣
東京府下巢鴨村二〇五〇
刺子問屋 柔道衣製作所 酒井一朗
〒接警口座 三三〇三三番
電話(一)又バ(口永)

資本金五拾七萬五千圓（金部出資）
諸積立金廿二萬參千八百圓

株式會社
京城南大町通一丁目

一般銀行業
倉庫業

朝鮮商業銀行

銀行長 趙田鎮明
支配人 豐田勲

本町支店

電話三八九番
振替東京一六八三四番

仁川支店
平澤支店

: 544 :

詭策 (十二)

處が、別に翻搖の様子も無い。伊賀守勝登は、彼中にあつて、此頃は脚か不脚である。兵を集むる氣色も無ければ、訓練の態も見えない。「はてな……」と常談は夜に入つて密と城の近くへ忍んだ。

第三條 一人、學校生徒、現役候補、工官等三十人以上、組織せしむる者に対する選挙券は、前條の半額と、團體券を交受する者とする。

第四條 其の制度之を、子弟代等の制度料に關するは、各都府之に任ぜ公す。

第五條 之は、制黨制の團體たる人及び其の生徒に於ては、責任ある町事主及び官廳、學校、會社、工場、主幹團體、町事主の證明ある一人に在る者以外、團體に入会するに明令を要す。

第六條 一放を要し但團體に入会するに明令を要す。

第七條 六歳未満の兒は投票券又は入場券を要す。

△無料の部

第一條 政黨、學團、團體及び公金會員にして其所定の投票券を領取する者を除くの外以上の資格を有する者は其連合會場内に無料入場せむ。

感じるや

四角うなぎ

魚

○大いなる事あれかしと願へども何事もなし何事もなし(砂丘秋)
起きて儼として寝る、或は起きもせず寝きもせず寝もせぬ時もある、生れてから何をやつたらう乎今年へ還入つてから何かしたかう呼び、生れた甲斐には……と思ふ事もあるが別に如何もならね、腕を枕にゴロリ横になり、斜になつたりして天井を眺める。

○知恵のある人と離れて暮くは島に暮らさん得る所あらん(秋人)

○考へんと島へ來れど考ふる事あらずにに落泊びてあり(同人)

フト出世間の考でもないが獨り世々絶つた氣分になる、海に行きみたる心を捨てる場所を求めて行く、鹽々しかつた頭を清めて思ふ事、考ふ

一 新聞雑誌通信記者にして共進会の職掌
二 所定之職員地方各條に規程する者
三 本會より交付したる持別入場券を所持する者
四 公共及び本會の便用人にて一定のもの
五 出品及他使用に於て物品整理の爲め賣店に出入の必要ありと認むる者
七 會場内之秩序維持及本會に於て認め賣店店長及店員等及本會に於て認め其の便用人
八 各通關於管理する賣店の品目表及本會に於て認むる其の便用人
九 各種行旅の經費費及本會に於て認め其の便用人
一〇 第三號以外に於ける共通會場敷地便用人
一 公共會場に於て特無料入場の許可を得ざる者
前項各條に該當するもの外特許本會に於て必要と認むる者は無料入場を許可するものあるべし

第二條 前項第一項第五項乃至一六號及び第六項に掲ぐる者無料入場をもつとするが條件
一 自己の寫眞一枚を事務所に提出し其の便用人に捺印せしむる者
二 寫眞は選舉會所の署紙に用ひ半月以上前掲したものに限る
三 寫眞は本市中心部の寫眞如ても三十センチメートルに記號せし者職工夫賃實

三高 九月十九日 正午
 相河 九月十八日 正午
 橋 九月十八日 正午
 電 九月十八日 正午
 電話 九月十八日 正午

子 院 乃 用 教 め 二 ぎ て 興 用 る 會 に 當 服 す に な
 京 城 日 記
 け

厚州丸	巨濟丸	每	釜山發
各港經由	各港經由	各港經由	各港經由
順天丸	慶興丸	公州丸	南浦發
各港經由	各港經由	各港經由	各港經由
仁川發	仁川發	仁川發	仁川發

報社主催家庭博覧會
いじやう
京城の空
ク
大だい

大坂 九月	日後四時出帆
土浦 九月	日後四時出帆
群山大阪行 能知臨津浦行	高杉回濱部
汽船釜山出帆廣告	
小倉司神戶大坂行 九月十四日發五時出帆	
元山坡津浦臨行 九月	日後十時出帆
小倉九月	
門司神戶大坂行	

開催を祝して
高く今日
ブ
飛行船
繋留

大阪商船出帆

○中國四國商船各務行一覽引に於て津路切符
發賣仕儀

○波國其同汽船株式會社
本町 川代店 山下 河清部
豐川 吳港店 四四七町
豐川 河代店 田口 河清部
大阪門地町二六八二一七町
京橋成衣店 河村 運送店

も
田
あ
が
揚る！
し



上海英界、打銅街(大連出帆)
 隆九 九月十三日 午前十時
 東丸 九月廿三日

御意 ○船積貨物及在船諸般會同之船積貨物
 ○諸乘客及在小船並出帆一時間前無違
 ○迎候於
 ○又甲子己酉各回船之印は船客の歸り

川切石賣賣所大阪商船會社支店
 電話二番二四三號至五〇
 城田竹發賣所 內國通運會社支店
 電話七〇八

を勝望は第一に不快である。心中
快からねば、自然其態度にも出て
なほ淺井御州と共によう死にもせいで出戻りの連子のお……と勝望はお市殿を呪めばお市殿はまた、良人勝家ですへ、遠慮勝家ののに、たごへ總帥にしても其子に當るものだが、主筋上の要に、鰐角頭を敵不届者さど互ひに深い溝を作つて、飯み合ひの姿、そこへ、此の夢の芝居盛役がこれがまたお市殿にも不快なら勝家に不愉快、此三人が三ツ巴、柴田家既に此點になつて、まづ人の和を缺いてゐるのであつた。
「あの長濱の伊賀、云はうかう無きでめ飲れ！」
「鬱つて悪しうはさせぬ。まづ、清く、心から参込まれ乍ら街の果までも行

て、あの筑前と取合、それともううはあるまいに、味方同志にての不和、これはよないやい……」
「不和で無い。」安斎は顔を振つて「あの強者、長濱に居ては、味方の不利と思ふからぢや。ぢやから、彼奴を長濱から追出して……」
「ま、ま、宜い。今さう云ふ様なこと云ひ出せば、勝家と御身とが不利になる。御身は柴田家の土着石、すれば大事や！ 政事は、此一益に任してなきやれし」
「御身、惡しうけしやらぬかい。」
「鬱つて惡しうはさせぬ。まづ、清く、心から參込られ、一益に慰めながら、でも飲れ！」
夏青の背であらう、石コロでも蹴り乍ら何の氣もなく街をグラム／＼行く鮮人の芝居の闊躍乎か何かけたたましい響きをききて練り歩く多くの勢次馬がソイ／＼喰つ付いて行く、悉かるのか、掛ざるのかのやうに卷込まれ乍ら街の果までも行

ろの氣ばかりして、何事をせんとする氣になればぬ。松冷しき岩影の水にひたりて靜かに浪のうね／＼を味はよ、何もなし、何事もなし。

○街を行く笑ひ興する人々の中に――
その淋しい心（書聲）
香村を嬲いだ口が利けるのだ、白く／＼頓首奇なる言葉が出る、苦悶の某君までグスラ／＼笑ふ、果て群衆の心理作用が一世代のやう途方もない一事を明してしまふ、尾端を附随して整色の説明をや卓を叩いて浪花節を怒鳴り出す、か静まることもなく静まれば自分ばかり馬鹿のやうで淋しい氣になる。

○活辯のごときまおげし心もて今日を一日を過ぎまし（青い灯）
門等使用人とすると此の便所者より向は有料料として出入券は共進會展覽會共なり

237 舟

天下 日本名
大飛行

品物

クラブ

船揚る

うせんあが

おしろいほんご
白粉本庄
晝は雄姿堂々
夜は光輝燦然
たいへいすほう
太平通の空高

大阪株式特電
 前報 六月四日 上野株式 二八三〇
 六月五日 上野株式 二八三〇
 六月六日 上野株式 二八三〇
 六月七日 上野株式 二八三〇
 六月八日 上野株式 二八三〇
 六月九日 上野株式 二八三〇
 六月十日 上野株式 二八三〇
 六月十一日 上野株式 二八三〇
 六月十二日 上野株式 二八三〇
 六月十三日 上野株式 二八三〇
 六月十四日 上野株式 二八三〇
 六月十五日 上野株式 二八三〇
 六月十六日 上野株式 二八三〇
 六月十七日 上野株式 二八三〇
 六月十八日 上野株式 二八三〇
 六月十九日 上野株式 二八三〇
 六月二十日 上野株式 二八三〇
 六月二十一日 上野株式 二八三〇
 六月二十二日 上野株式 二八三〇
 六月二十三日 上野株式 二八三〇
 六月二十四日 上野株式 二八三〇
 六月二十五日 上野株式 二八三〇
 六月二十六日 上野株式 二八三〇
 六月二十七日 上野株式 二八三〇
 六月二十八日 上野株式 二八三〇
 六月二十九日 上野株式 二八三〇
 六月三十日 上野株式 二八三〇

仁豆米取引所

[illegible][illegible]

通りに遊びた。少年ならん。刀を腰に懸け、
 切通し居る。押入の奥に居て参りしか。

九十九九
九十九九
九十九九
九十九九